

WindowsXPをお使いの方へ

C77190001

目次	1 WindowsXP をお使いの前に	3
	WindowsXP を使用できるようになるまでの手順	3
	添付されているソフトウェア	4
	WindowsXP のセットアップ	5
	WindowsXP セットアップ終了後の作業	7
	WindowsXP 使用時の確認事項	9
	WindowsXP の終了と電源の切り方	12
	2 WindowsXP の使い方	13
	WindowsXP の使い方	13
	マウスを使う	15
	FDD (フロッピーディスクドライブ) を使う	15
	解像度や表示色を変更する	16
	インターネットに接続するには	18
	Internet Explorer の使い方	22
	Outlook Express の使い方	23
	省電力機能	25
	サウンド機能	25
	3 こんなときは	26
	キーボードの不具合	26
	ディスプレイの不具合	26
	FAX モデムの不具合 (FAX モデム機能内蔵モデル)	27
	4 HDD を購入時の状態に戻す	28
	必要なメディア	28
	HDD を購入時の状態に戻す順番	29
	HDD を購入時の状態に戻す前の注意	30
	リカバリの実行	31
	マウスドライバのインストール	32
	モデムドライバのインストール (FAX モデム機能内蔵モデル)	32
	そのほかの設定	34
	5 付録	36
	AT コマンドの使用	36
	HDD 領域の変更	36

本書の使い方

本書は、Microsoft® Windows®XP Professional(以降WindowsXP)をお使いになる場合の使用方法や注意事項などを記載しています。

本機に添付の『ユーザーズマニュアル』は、Microsoft® Windows®98、Microsoft® Windows®Millennium EditionまたはMicrosoft® Windows®2000 Professional(以降Windows2000)を使用することを前提に記載しています。このため、WindowsXPで本機をお使いになる場合、使用方法などが一部異なります。

下記一覧は『ユーザーズマニュアル』の読み替えが必要な箇所について記載しています。本機をご利用の際は該当箇所をご覧になり、本書と『ユーザーズマニュアル』をよくお読みの上、WindowsXPを使用してください。

本書に記載がない事項に関しては、『ユーザーズマニュアル』に記載されているWindows2000に関する記載をWindowsXPと読み替えてください。

ユーザーズマニュアルの各章	読み替え	本書参照先
使い始めるまでの準備		 p.3 「1 WindowsXPをお使いの前に」
コンピュータの基本操作		 p.13 「2 WindowsXPの使い方」
システムの拡張	×	—————
BIOSの設定	×	—————
こんなときは		 p.26 「3 こんなときは」
付録		 p.28 「4 HDDを購入時の状態に戻す」  p.36 「5 付録」

<表中の記号について>

：一部の記述を本書と読み替えてください。

×：読み替えは必要ありません。

WindowsXPをお使いの前に

本章では、購入してからWindowsXPを使用できるようになるまでの、必要な作業について説明します。

WindowsXPを使用できるようになるまでの手順

下記の手順に従って、WindowsXPを使えるように準備します。下記参照ページに従って作業を進めてください。

梱包品の確認

↓ 梱包品に不足や不良がないか確認します。

👉 『梱包品の確認』または『梱包品を確認してください』

コンピュータをご使用前に確認する

↓ コンピュータをお使いになる前に、必要な情報を確認します。

👉 『ユーザズマニュアル』- 表紙裏面「安全にお使いいただくために」

👉 『ユーザズマニュアル』- p.(9)「製品保護上の注意」

👉 『ユーザズマニュアル』- p.2「ご使用前に」

👉 『ユーザズマニュアル』- p.6「各部の名称と働き」

👉 p.4「添付されているソフトウェア」

コンピュータを設置する

↓ 本機を安全な場所に設置します。

👉 『ユーザズマニュアル』- p.8「コンピュータの設置」

コンピュータの電源を入れる

↓ コンピュータの電源を入れてWindowsをセットアップします。

👉 『ユーザズマニュアル』- p.17「電源を入れる前に」

👉 『ユーザズマニュアル』- p.18「電源の入れ方とWindowsの起動」

WindowsXPのセットアップ

↓ 👉 p.5「WindowsXPのセットアップ」

WindowsXPのセットアップ終了後に必要な作業を行う

↓ 👉 p.7「WindowsXPセットアップ終了後の作業」

👉 p.9「WindowsXP使用時の確認事項」

コンピュータの電源を切る

👉 p.12「WindowsXPの終了と電源の切り方」

添付されているソフトウェア

本機に標準で添付されているソフトウェアは次のとおりです。購入時のシステム構成によっては、このほかにも添付されているソフトウェアがあります。

表中記号の見方



: 購入時にHDD にインストールされています。



: 購入時には、インストールされていません。
必要に応じてインストールしてください。

リカバリ CD に登録されているソフトウェア

Windows

Windowsは、最新のものがインストールされています。



モデムドライバ

(FAX モデム機能搭載モデル)
FAXモデム機能を使用するためのドライバです。



Adobe Acrobat Reader

様々なアプリケーションソフトで作成した書類のデザインやレイアウトをそのまま再現するPDF ファイルの表示やプリントができるソフトウェアです。



上記以外のデバイスドライバ(ネットワークドライバやサウンドドライバなど)はWindowsXP標準ドライバを使用します。WindowsXP標準ドライバとは、WindowsXPをインストールすると自動的にインストールされるドライバのことです。

専用のCDが添付されているソフトウェア

VirusScan for Windows

最新マクロウイルスに対応し、ウイルス駆除もできる高機能なウイルス対策プログラムです。

CD名:「ユーティリティCD」



マウスドライバ

ホイール付きPS/2 マウスを使用するためのデバイスドライバです。

CD名:「マウスドライバCD」



バックアップディスクを作成するソフトウェア

ユーザーズマニュアル(PDF ファイル)「ユーザーズマニュアル」が、コンピュータ画面上でいつでも見られるようにPDF化されています。

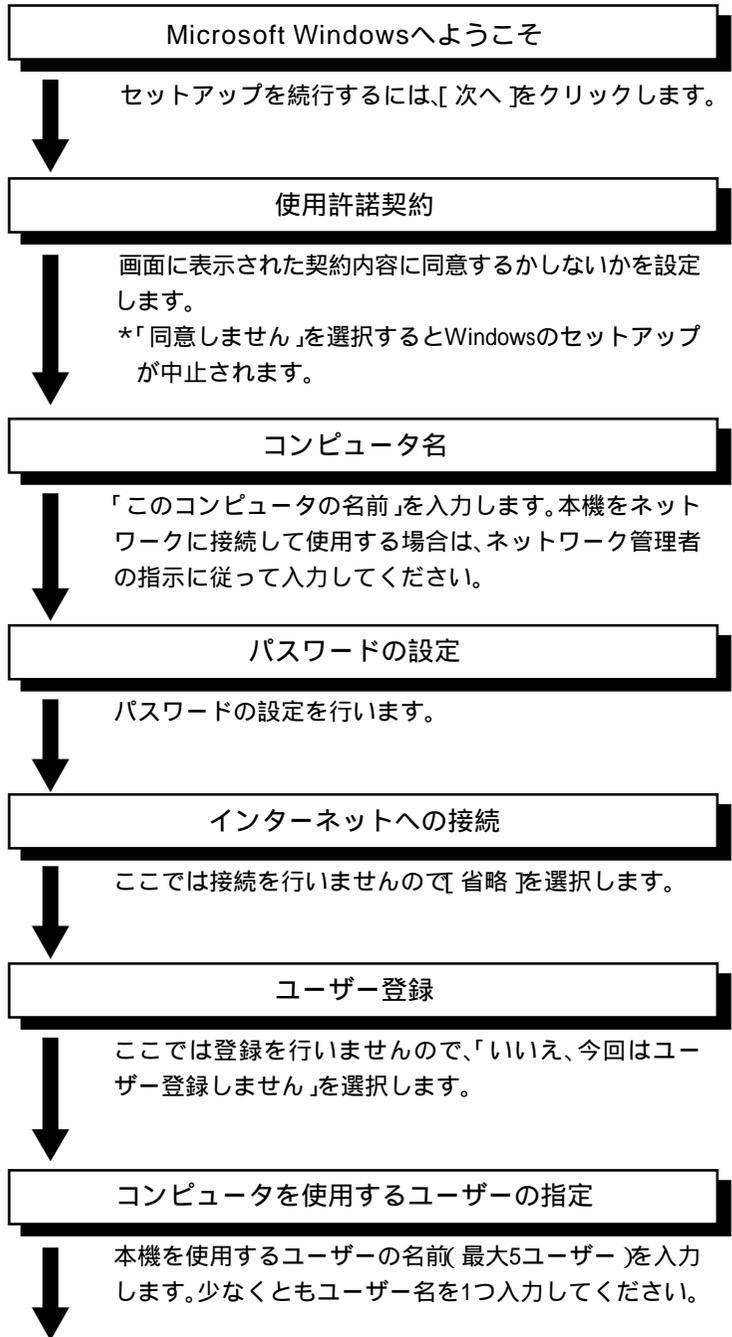


購入時の仕様によっては、上記以外にもバックアップディスクを作成する必要があります。

WindowsXPのセットアップ

WindowsXPインストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

- 1 電源を入れた後、しばらくすると自動的に「WindowsXPセットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。





インストールの完了

WindowsXPが正常にインストールされました。[完了]をクリックするとコンピュータが自動的に再起動します。

- 2 WindowsXPが再起動すると、次の画面が表示されます。これで「WindowsXPセットアップ」は終了です。



セットアップの際にユーザー名を2つ以上入力した場合は、WindowsXPの再起動後に「ようこそ」画面が表示されます。ユーザー名をクリックすると上記の画面が表示されます。

WindowsXPセットアップ終了後の作業

WindowsXPのセットアップ終了後には、次の作業が必要です。

- ・バックアップディスクの作成
- ・ネットワークに接続する
- ・FAXモデムの設定(FAXモデム機能搭載モデル)
- ・VirusScan for Windowsのインストール

バックアップディスクの作成

バックアップディスクの作成は、「バックアップFD作成ユーティリティ」で行います。マニュアルディスクのほかに、「リカバリCD」には登録されていない最新のドライバなどのバックアップディスクを作成する場合があります。

バックアップディスクを作成するには、フォーマット済みのFD が必要です。

 p.15「FDD(フロッピーディスクドライブ)を使う」



- ・バックアップディスクを作成する前にHDDをフォーマットしたり、リカバリを実行したりしてしまうと、バックアップディスクが作成できません。
- ・バックアップディスクを作成しないと、ソフトウェアの再インストールができません。必ず作成してください。

バックアップディスクの作成方法は、次のとおりです。

- 1 [スタート]-「すべてのプログラム」-「バックアップFD 作成ユーティリティ」を実行します。
- 2 「バックアップFD 作成ユーティリティ」が実行されると、「作成するディスクセットの選択」が表示されます。
- 3 画面に表示されているディスクセットの中から作成したいディスクセットをクリックして、[次へ]をクリックします。
画面の指示に従ってバックアップディスクを作成します。
- 4 同様にして「作成するディスクセットの選択」画面に表示されるすべてのディスクセットを作成します。
作成したディスクにはディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトをして大切に保管しておいてください。
 『ユーザーズマニュアル』 - p.46 「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

ネットワークに接続する

ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。ネットワーク管理者の指示に従ってください。

FAXモデムの設定(FAXモデム機能搭載モデル)

インターネットへ接続できるようにFAXモデムの設定を行います。

 p.18「2 WindowsXPの使い方」-「インターネットに接続するには」

VirusScan for Windows のインストール

「VirusScan for Windows」は、購入時にはインストールされていません。「VirusScan for Windows」をインストールします。インストール方法は、本機に添付の「VirusScan for Windowsをご使用の前に」をお読みください。

WindowsXP使用時の確認事項

WindowsXPの使用方法的詳細は、本機に添付の「ファーストステップガイド」または「Windowsのヘルプ」をご覧ください。
ご使用前に次の事項の確認を行ってください。

2回目以降に電源を入れる

セットアップが終了したコンピュータに電源を入れるときには、次の点に注意してください。

電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる。
省電力機能が働き、動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまうように注意してください。
 『ユーザーズマニュアル』 p.73「省電力機能」
電源を入れ直すときは、20秒程度の間隔を開けてから電源を入れる。
電気回路に与える電氣的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。
周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を先に入れる。
コンピュータよりも先に電源を入れておかないと、コンピュータに認識されない機器があります。

音量の調整

WindowsXP 起動時に音が鳴らない、または大きすぎるといった場合には次のように音量を調節します。

「スピーカ」アイコン

画面右下のタスクバーに表示されている「スピーカ」アイコンをクリックすると「ボリュームコントロール」が表示されます。

システム音量の調整

[スタート]-「コントロールパネル」-「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」-「システム音量を調整する」をクリックして「音量」タブの「デバイスの音量」で調整します。

 『ユーザーズマニュアル』 p.77「サウンド機能」

省電力機能

本機では、一定時間マウスやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えます。この場合、キーボードのスペースキーを押すと、もとに戻ります。

 『ユーザーズマニュアル』 p.73「省電力機能」

デバイスドライバをインストールするときは

デバイスドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」が要求されることがあります。このような場合は、添付の「リカバリCD」をセットせずに、次のフォルダ名を指定してください。

C:\¥WINDOWS¥I386(Iはアルファベット)

上記フォルダは、購入時には、Cドライブに保存されています。デバイスドライバのインストール時に必要なフォルダです。絶対に削除しないでください。

購入時のHDD領域の設定について

WindowsXPインストールモデルのHDD領域は、すべての領域 (Cドライブ) をNTFSで設定しています。

HDD領域を変更する場合は、WindowsXPの再インストールが必要です。変更方法は、p.36「HDD領域の変更」をお読みください。

デスクトップクリーンアップ

セットアップを実行してから7日目以降にWindowsXPを起動すると、次のメッセージが表示される場合があります。

使用していないアイコンがデスクトップにあります。...

このメッセージはデスクトップ上に未使用のアイコンがあると表示されます。メッセージをクリックして「デスクトップクリーンアップウィザード」を起動します。画面のメッセージに従って実行すると、不要なアイコンを選択してデスクトップ上から削除することができます。



「デスクトップクリーンアップウィザード」は、デスクトップ上で右クリックして「アイコンの整列」を選べば、いつでも実行できます。

JAVA VMのインストール

ホームページを閲覧しているときに「JAVA VM(JAVA仮想マシン) をインストールしてください。」といったメッセージが表示されることがあります。このようなホームページを閲覧するには JAVA VMが必要です。

JAVA VMのインストール方法は、次のとおりです。

- 1 「リカバリCD Disc3」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

- 3 「名前」に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
D:¥JAVAVM¥MSJAVX86
(CD-ROM ドライブがDドライブの場合)
- 4 「Microsoft VMをインストールしますか」と表示されたら、[はい]
をクリックします。
- 5 「次の使用許諾契約をお読みください。……」と表示されたら、内
容を確認し[はい]をクリックします。
- 6 「インストールを完了しました」と表示されたら、[OK]をクリック
します。
- 7 「新しい設定を有効にするには、コンピュータを再起動する必要が
あります。…」と表示されたら、[はい]をクリックします。
Windowsが再起動したらJAVA VMのインストールは終了です。
JAVA VMの設定は、「Internet Explorer」を起動して、「ツール」-「インターネッ
トオプション」-「詳細設定」タブの「Microsoft VM」項目で確認できます。

WindowsXPの終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindowsXPを終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート]-[終了オプション] をクリックします。
- 2 「コンピュータの電源を切る」画面で [電源を切る] をクリックします。
- 3 WindowsXPが終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 4 接続している周辺機器の電源を切ります。

リセット方法

コンピュータの電源が入っている状態で、コンピュータを再起動する必要がある場合には、「リセット」を行います。

リセットは次のような場合に行います。

- ・使用しているソフトウェアで指示があった場合
- ・プログラムがハングアップした場合

WindowsXPのリセット方法は次のとおりです。

[スタート]-[終了オプション]-[再起動] をクリックします。

このほか、『ユーザーズマニュアル』- p.36「リセット」もあわせてお読みください。

2 WindowsXPの使い方

本章では、次の事項について説明しています。

WindowsXPの使い方について

WindowsXPの基本的な操作方法について説明しています。詳しい使用法は、「ファーストステップガイド」または「Windowsのヘルプ」をお読みください。

『ユーザーズマニュアル』の読み替え部分について

本章では、『ユーザーズマニュアル』-「コンピュータの基本操作」との読み替えが必要な項目について説明しています。それ以外の項目については、『ユーザーズマニュアル』-「コンピュータの基本操作」をお読みください。

WindowsXPの使い方

[スタート]メニュー

アプリケーションやユーティリティなどの起動は、主に[スタート]メニューから行います。



[スタート]をクリックすると[スタート]メニューが表示されます。



[スタート]メニューの「すべてのプログラム」をクリックすると、そのほかのプログラムが表示されます。

ユーザーアカウントの設定

一台のコンピュータを複数の利用者で使用するときには、WindowsXPのユーザーアカウント機能が便利です。個別のアカウント登録ができ、デスクトップの外観をカスタマイズできます。また、パスワードを設定しておけば、ファイルの安全性とプライバシーが保護されます。アカウントには、「コンピュータの管理者」と「制限」の2つの権限があります。利用者はどちらかの権限でコンピュータを利用できます。ユーザーアカウントの設定は、[スタート]-「コントロールパネル」-「ユーザーアカウント」から行います。詳しくは、[スタート]-「コントロールパネル」-「ユーザーアカウント」-「ヘルプ」をお読みください。

WindowsXP終了時の注意

WindowsXPを複数のユーザーが使用している場合に、[スタート]-[終了オプション]-[電源を切る]を選択して電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています...」と表示されます。この場合は、画面を切り替えて、ログオンしているすべてのユーザーのログオフを1人ずつ行ってください。ログオフは、[スタート]-[ログオフ]-[ログオフ]をクリックして行います。

インタラクティブトレーニング

「ステップバイステップインタラクティブ」を実行すると、WindowsXPの使い方を画面上で見ることができます。

「ステップバイステップインタラクティブ」を実行するには、[スタート]-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「Microsoftインタラクティブトレーニング」-「Microsoftインタラクティブトレーニング」をクリックします。

 p.34 「ステップバイステップインタラクティブのインストール」

マウスを使う

マウスの設定変更

マウスボタンの設定や使用環境の変更は、[スタート]-「コントロールパネル」-「プリンタとその他のハードウェア」-「マウス」で行います。詳しくは、オンラインヘルプをご覧ください。

FDD(フロッピーディスクドライブ)を使う

FDのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。新しいFDを使用する場合や登録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットします。メディアの種類にあったフォーマットを行わないと、データの読み書きエラーが発生します。FDのフォーマット方法は次の項目「フォーマット方法」をお読みください。



- ・ FDをフォーマットすると、登録されているデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。
- ・ 本機では、720KBのFDはフォーマットできません。

フォーマット方法

Windowsのフォーマットユーティリティを使ったFDのフォーマットは、次の方法で行います。

- 1 [スタート]-「マイコンピュータ」をクリックします。
- 2 「3.5インチFD」を右クリックして「フォーマット」をクリックします。
- 3 フォーマットの種類などを設定して[開始]をクリックします。「警告」が表示された場合は[OK]をクリックします。
- 4 「フォーマットが完了しました」と表示されたら、[OK]をクリックします。
続けて別のFDをフォーマットする場合は、FDを入れかえて手順3～4を繰り返します。
- 5 [閉じる]をクリックし、フォーマットユーティリティを閉じます。

解像度や表示色を変更する

本機の画面の解像度、表示色数の変更や、そのほか表示に関する設定について説明します。変更時には「Windowsのヘルプ」も参照してください。



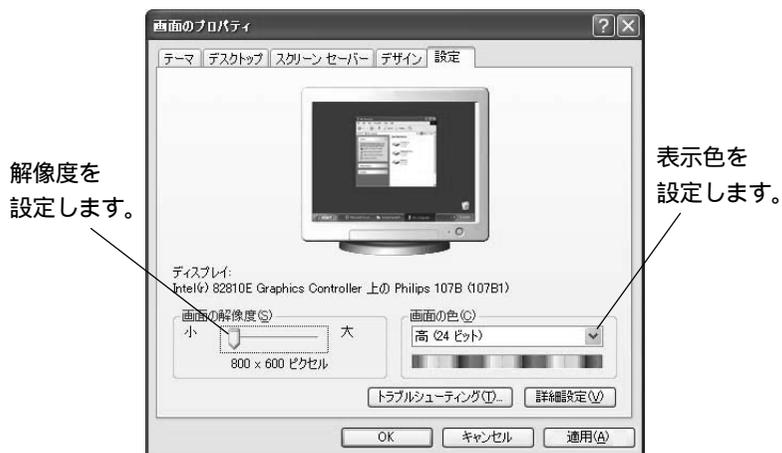
セーフモードでの起動

本機のビデオ機能で表示できない解像度を選択すると、Windowsを再起動したときに、画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで起動して再設定を行ってください。

p.26 「3 こんなときは」 - 「ディスプレイの不具合」

解像度や表示色を変更するには

- 1 [スタート]-「コントロールパネル」-「デスクトップの表示とテーマ」-「画面解像度を変更する」を選択します。
- 2 「画面の色」や、「画面の解像度」で設定を変更します。
- 3 [適用] をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。



解像度と表示色

本機で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

解像度 \ 表示色	中(16ビット)	高(24ビット)
800×600ドット		
1024×768ドット		
1152×864ドット		
1280×1024ドット		



本機では、「解像度と表示色」に記載されている以外の設定を選択することができますが、それらの設定に関しては保証していません。

ディスプレイの設定

ディスプレイの設定が正しくないと解像度を変更することができません。[スタート]-「コントロールパネル」-「デスクトップの表示とテーマ」-「画面解像度を変更する」-[詳細設定]-「モニタ」タブで接続されているディスプレイの設定を行ってください。

インターネットに接続するには

WindowsXPでFAXモデムを使用してインターネットへ接続するための設定方法は、次のとおりです。

ダイヤルするための準備

モデムの設定をしていない場合は、市外局番やダイヤル方法などの設定を行います。

- 1 [スタート]-「コントロールパネル」-「プリンタとその他のハードウェア」-「電話とモデムのオプション」をクリックします。
- 2 「所在地」、「国/地域」、「市外局番」、「外線発信番号」や「ダイヤル方法」などを設定します。

オンラインでプロバイダと契約する

オンラインでプロバイダと契約する手順は、次のとおりです。契約時にクレジットカードのナンバーや有効期限などの情報が必要ですので、事前に用意しておきます。

- 1 [スタート]-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「通信」-「新しい接続ウィザード」をクリックします。
- 2 「新しい接続ウィザードの開始」画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 3 「ネットワーク接続の種類」と表示されたら、「インターネットに接続する」にチェックが付いている状態で「次へ」をクリックします。
- 4 「準備」と表示されたら、「インターネットサービスプロバイダ (ISP)の一覧から選択する」にチェックが付いている状態で「次へ」をクリックします。
- 5 「新しい接続ウィザードの完了」と表示されたら、「ほかのISPの一覧から選ぶ」にチェックを付けて「完了」をクリックします。
- 6 「Online Services」画面が表示されたら、「ほかのインターネットサービスプロバイダを紹介します」アイコンをダブルクリックします。

- 7 「インターネット接続ウィザード」画面が表示されます。
自動的にダイヤルされて、必要な情報がダウンロードされます。
- 8 ダウンロードされた情報が開きます。契約したいプロバイダを選んで、「次へ」をクリックします。
- 9 情報を入力して、契約します。以降は、各プロバイダの画面の指示に従ってください。
プロバイダから提示されるユーザー ID やパスワードなどの情報は、忘れずに書きとめておきます。

手動でダイヤルアップ接続の設定をする

手動でダイヤルアップ接続の設定を行う手順は、次のとおりです。

- 1 [スタート]-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「通信」-「新しい接続ウィザード」をクリックします。
- 2 「新しい接続ウィザードの開始」と表示されたら「次へ」をクリックします。
- 3 「ネットワーク接続の種類」と表示されたら、「インターネットに接続する」にチェックが付いている状態で「次へ」をクリックします。
- 4 「準備」と表示されたら、「接続を手動でセットアップする」にチェックを付けて「次へ」をクリックします。
- 5 「インターネット接続」と表示されたら、「ダイヤルアップモデムを使用して接続する」にチェックが付いている状態で「次へ」をクリックします。
- 6 「接続名」と表示されたら、接続先の名前を入力して「次へ」をクリックします。
- 7 「ダイヤルする電話番号」と表示されたら、接続先の電話番号を入力して「次へ」をクリックします。
- 8 「インターネットアカウント情報」と表示されたら、プロバイダから指定されている「ユーザー名」、「パスワード」をそれぞれの項目に入力して「次へ」をクリックします。

- 9 「新しい接続ウィザードの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。
- 10 [スタート] - 「接続」 - 「(手順6で設定した接続先の名前)」 をクリックします。
- 11 [プロパティ] をクリックします。
- 12 プロバイダからDNS(ドメイン・ネーム・サーバー)のIPアドレスを指定されている場合は次の設定を行います。
 - ① 「ネットワーク」タブ - 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」 - [プロパティ] をクリックします。
 - ② 「次のDNSサーバーのアドレスを使う」 にチェックを付けます。
 - ③ 「優先DNSサーバー」、「代替DNSサーバー」に、プロバイダから指定されているDNS(ドメイン・ネーム・サーバー)のIPアドレスを入力し、[OK] をクリックします。
- 13 「全般」タブ - 「ダイヤル情報を使う」 にチェックを付けて [OK] をクリックします。
- 14 [キャンセル] をクリックします。

自動接続・切断の設定

自動接続・切断の設定を行うと、Internet Explorerを起動または終了した際に、インターネットへの接続画面または切断画面が表示されるようになります。

自動接続・切断の設定は、次の手順で行います。

- 1 [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「ネットワークとインターネット接続」 - 「インターネットオプション」 - 「接続」 をクリックします。
- 2 「通常の接続でダイヤルする」 にチェックを付けます。
- 3 [設定] - [詳細設定] をクリックします。
- 4 「接続がなくなるときの切断する」 にチェックを付けて [OK] をクリックします。これで自動接続・切断の設定は終了です。

Outlook Expressの初期設定

Outlook Expressを初めて起動した際には、いくつかの情報を入力して初期設定を行う必要があります。

初期設定は、次の手順で行います。

- 1 [スタート]-「すべてのプログラム」-「Outlook Express」をクリックします。
- 2 「名前」と表示されたら、名前を入力して[次へ]をクリックします。
- 3 「インターネット電子メールアドレス」と表示されたら、プロバイダから取得した電子メールアドレスを入力して[次へ]をクリックします。
- 4 「電子メールサーバー名」と表示されたら、プロバイダから指定されているサーバー名を入力して[次へ]をクリックします。
- 5 「インターネットメールログオン」と表示されたら、プロバイダから指定されているアカウント名とパスワードを入力して[次へ]をクリックします。
- 6 「設定完了」と表示されたら、[完了]をクリックします。

Internet Explorerの使い方

Internet Explorerの起動方法と終了方法を説明します。

起動方法

起動方法は次のとおりです。

- 1 [スタート]-「すべてのプログラム」-「Internet Explorer」をクリックします。
- 2 「ダイヤルアップの接続」画面が表示されます。「接続先」、「ユーザー名」、「パスワード」を入力します。
自動的に入力されている項目もあります。
- 3 入力内容を確認して「接続」をクリックします。
- 4 接続するとユーザー名や、パスワードの確認が行われます。
接続が完了すると、タスクバーに接続アイコンが表示されます。



参考

インターネットに接続してからソフトウェアを起動するには
接続の開始は、スタートメニューの次の場所からも行えます。この場合は、
接続完了後にソフトウェアを起動します。

[スタート]-「接続」-「(接続先の名前)」

終了方法

終了方法は次のとおりです。

- 1 画面右上の×をクリックして、「Internet Explorer」を終了します。
- 2 「自動切断」画面が表示されます。「今すぐ切断する」をクリックします。

Outlook Expressの使い方

Outlook Expressの起動方法と終了方法を説明します。

起動方法

起動方法は次のとおりです。

- 1 [スタート]-「すべてのプログラム」-「Outlook Express」をクリックします。
「オンラインに切り替えますか?」と表示されたら、インターネットに接続する場合は、[はい] をクリックします。
初めてOutlook Expressを起動した場合は、p.21「Outlook Expressの初期設定」を参照して初期設定を行います。
- 2 「ダイヤルアップの接続」画面が表示されます。「接続先」、「ユーザー名」、「パスワード」を入力します。
自動的に入力されている項目もあります。
- 3 入力内容を確認して[接続]をクリックします。
- 4 接続するとユーザー名や、パスワードの確認が行われます。
接続が完了すると、タスクバーに接続アイコンが表示されます。



メールを送信する(オンラインの場合)

- 1 [メールの作成]をクリックしてメール作成画面を表示します。
- 2 必要事項「宛先」「件名」「本文」を入力してメールを作成します。
- 3 [送信]をクリックします。

メールを送信する(オフラインの場合)

- 1 オンラインの場合の手順1、2を参照して、メールを作成します。
- 2 [送信]をクリックすると、「送信トレイ」フォルダにメールが一時保存されます。
ここで「... [送受信] コマンドを実行するまで、[送信トレイ]に置かれます。」とメッセージが表示されたら、[OK]をクリックします。
複数のメールを作成し、一度に送信することができます。
- 3 [送受信]をクリックし、「オフラインで作業しています。オンラインに切り換えますか?」と表示されたら、[はい]をクリックします。
- 4 「ダイヤルアップ接続」画面で、[接続]をクリックします。
接続が完了すると、「送信トレイ」に保存されていたメールが送信されます。

メールを受信する

- 1 「Outlook Express」を起動してインターネットに接続すると自動的に受信します。
インターネットに接続されていない場合は、[送受信] ボタンをクリックすると接続作業が行われます。
- 2 受信したメールはフォルダの「受信トレイ」に格納されます。
「受信トレイ」をクリックすると、画面右側に、受信メールの一覧と内容が表示されます。

終了方法

終了方法は次のとおりです。

- 1 インターネットに接続している場合は、「ファイル」-「オフライン作業」をクリックします。
- 2 「オフライン状態にする前に、モデム回線を切断しますか」と表示されたら、[はい]をクリックします。
- 3 画面右上の x をクリックして、「Outlook Express」を終了します。

省電力機能

休止状態を有効にする

休止状態は作業内容をHDDに保存して電源を切ります。電源スイッチを切った状態と同様に電力を消費しません。通常モードへの復帰には多少時間がかかります。

時間経過で実行

省電力モードに移行する時間の設定を行うことができます。

[スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「電源オプション」-「電源設定」タブで設定します。

直ちに実行

次の方法でスタンバイ、または休止状態に移行します。

[スタート]-[終了オプション]から選択、実行する。

(**[Shift]** キーを押すと「スタンバイ」から「休止状態」に表示が切りかわります。)

電源スイッチを押す

電源スイッチを押したときに、どのモードに移行するかの設定を次のタブで行うことができます。

[スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「電源オプション」-「詳細設定」タブ

サウンド機能

音を鳴らしたり、録音したりするには

サウンドユーティリティは、[スタート]-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「エンターテイメント」フォルダに登録されています。Windowsのサウンドユーティリティの使用方法は、「Windowsのヘルプ」を参照してください。

本章では、『ユーザーズマニュアル』-「こんなときは」の読み替え部分について説明しています。本章に記載されていない項目については、『ユーザーズマニュアル』に記載されている内容をWindows2000 からWindowsXP に読み替えてください。

 『ユーザーズマニュアル』 p.114「困ったときに」

キーボードの不具合

現象 キートップにある文字や記号が入力できない。

確認と対処 Windows上でキーボードが正常に設定されていない可能性があります。
[スタート]-「コントロールパネル」-「プリンタとその他のハードウェア」-「キーボード」をクリックし、次のキーボードが選択されているか確認してください。
101/102英語キーボードまたはMicrosoft Natural PS/2キーボード

ディスプレイの不具合

現象 画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示しなくなった。

確認と対処 使用中のディスプレイでは、表示できない解像度を選択した可能性があります。セーフモードで起動し直し、解像度を正しく選択してください。セーフモードは、WindowsXPを基本的な設定で起動するモードです。

セーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置した後、電源を入れます。
- 2 電源を入れた直後に **[F8]** を押し、そのまましばらく離さずに押し続けます。押さない場合は通常モードでWindowsXPが起動します。
押しているときに、「ピピピ」というブザー音が鳴ることがありますが、故障ではありません。
- 3 「Windows拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、**[↓]** を押します。
- 4 「オペレーティングシステムの選択」と表示されたら、**[↓]** を押します。
- 5 「ようこそ」画面が表示されます。ログオンするとセーフモードでWindowsが起動します。

FAXモデムの不具合 (FAXモデム機能内蔵モデル)

現象 「モデムが検出されませんでした。」とエラーメッセージが表示され、インターネットに接続できない。

確認と対処 次の場所からモデムの照会を実行してみてください。モデムに問題がある場合はエラーメッセージが表示されます。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「プリンタとその他のハードウェア」 - 「電話とモデムのオプション」 - 「モデム」タブ - [プロパティ] - 「診断」タブの [モデムの照会]

現象 インターネットへ接続できない

確認と対処 モジュラコードが、モデムコネクタに接続されているかを確認します。

次の場所で電話番号や、設定を再確認します。また、国番号と市外局番や、トーンとパルスの設定も確認します。

[スタート] - 「接続」 - 「接続名(任意の名前)」 - [プロパティ] - [ダイアル情報]

次の方法でダイアルの設定を変更してみてください。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「プリンタとその他のハードウェア」 - 「電話とモデムのオプション」 - 「モデム」タブ - [プロパティ] - 「モデム」タブ - 「ダイアルの管理」項目 - 「発信音を待ってからダイアルする」のチェックを外します。

ネームサーバーのIPアドレスを入力した場合は設定が正しいか確認します。正しくない場合は修正します。

次の手順でネームサーバーのIPアドレスを確認します。

- ① [スタート] - 「接続」 - 「接続名(任意の名前)」 - [プロパティ] をクリックします。
- ② 「ネットワーク」タブ - 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」 - [プロパティ] でDNSサーバーのアドレスを確認します。

HDDを購入時の状態に戻す

本機は、HDDを購入時の状態に戻すことができます。WindowsXP が起動しなくなった、正常に動作しなくなったなどの不具合が生じたときに、HDDを購入時の状態に戻すことで問題が解消される場合があります。HDDを購入時の状態に戻す場合は、『ユーザーズマニュアル』-「付録」- p.144「HDDを購入時の状態に戻す」の手順を、すべて本章の手順に読み替えてください。



制限

HDDを購入時の状態に戻したあとは、バックアップディスクを作成することができません。購入時の状態に戻す前に、必ずバックアップディスクを作成しておいてください。

 p.7「バックアップディスクの作成」

- ・弊社製以外のBIOSを使用すると、リカバリの実行ができなくなります。弊社製以外のBIOSへのアップグレードは絶対に行わないでください。

必要なメディア

HDDを購入時の状態に戻すには、次のメディアが必要です。

リカバリCD

WindowsXP と各種デバイスドライバが登録されているCD-ROMです。
Disc1、Disc2、Disc3の3枚組になっています。

マウスドライバCD

マウスドライバが登録されているCD-ROMです。

ユーティリティCD

VirusScan for Windows が登録されているCD-ROMです。

そのほか必要なメディア

お使いのシステム構成や使用するアプリケーションソフトによって必要なメディアは異なります。

HDDを購入時の状態に戻す順番

次の順番でHDDを購入時の状態に戻します。作業を行う前に、必ず次ページ「HDDを購入時の状態に戻す前の注意」をお読みください。

リカバリの実行 (p.31)



リカバリ CD を使用して、HDD のフォーマット作業および Windows とデバイスドライバのインストール作業を自動で行います。

WindowsXP のセットアップ (p.5)



購入時に行った「WindowsXP のセットアップ」をもう一度行います。お客様の情報を記録したり、お使いのシステム環境にあわせて設定を行います。

マウスドライバのインストール (p.32)



「マウスドライバ CD」を使用して、マウスドライバのインストールを行います。

モデムドライバのインストール (FAX モデム機能搭載モデルのみ) (p.32)



「リカバリ CD Disc3」を使用して、モデムドライバのインストールを行います。

WindowsXP セットアップ終了後の作業 (p.31)



セットアップ終了後の各種設定などを行います。

そのほかの設定 (p.34)

ユーティリティをインストールしたり、周辺機器の設定を行います。

HDDを購入時の状態に戻す前の注意

HDDを購入時の状態に戻す場合は、必ず次の事項を確認してから作業を始めてください。



- ・本機で使用している「リカバリCD」は、Windowsとドライバ類を同時にインストールします。Windowsのみをインストールすることはできません。

ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成は購入時の状態になっているものとします。CD-ROMドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

Aドライブ:FDD

Cドライブ:HDD

Dドライブ:CD-ROMドライブ

本章の説明では、本機に装着されている5.25型ドライブ装置を「CD-ROMドライブ」として記載しています。

CD-R/RWドライブなどのドライブが装着されている場合は、「CD-ROMドライブ」をお使いのドライブに読み替えてください。

リカバリ

リカバリを実行すると、バックアップディスクを作成することができなくなります。バックアップディスクを作成していない場合は、リカバリ実行前に、バックアップディスクを作成してください。

 p.7「バックアップディスクの作成」

リカバリを実行すると、HDDがフォーマットされ、Cドライブのデータはすべて消去されます。HDD上の重要なデータは、FDなどにバックアップしておいてください。

HDDにCドライブのほかにDドライブ以降の領域を作成してある場合は、リカバリを実行する前にDドライブ以降の重要なデータもFDなどにバックアップを取っておいてください。リカバリ実行中にトラブルが発生した場合、Dドライブ以降の領域が消滅する可能性があります。

リカバリCDは、NTFSを使用してHDDを購入時の状態に戻します。ファイルシステムを変更しても、リカバリを実行するとNTFSでWindowsがインストールされます。

「リカバリCD」は、本機以外のコンピュータでは使用できません。

リカバリ実行中は、「リカバリCD」を抜かないでください。

インストール全般

本章の手順は、購入時のシステム構成を前提に記載しています。本機購入後に周辺機器を取り付けた場合やBIOSの設定を変更した場合は、購入時のシステム構成に戻してからリカバリを実行することをおすすめします。

デバイスドライバのインストール

デバイスドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに、「Windows CD-ROM」を要求されることがあります。このような場合は、「リカバリCD」をセットせずに、次のフォルダを指定してください。

C:\WINDOWS\I386 (Iはアルファベット)

WindowsXPセットアップ終了後の作業

「バックアップディスクの作成」は、購入後電源を初めて入れたときに行う「WindowsXP セットアップ終了後の作業」で一度行っているため、通常は必要ありません。

 p.7「WindowsXP セットアップ終了後の作業」

リカバリの実行

リカバリの実行方法は、『ユーザーズマニュアル』- p.148「リカバリの実行」を参照してください。リカバリ実行時には、リカバリCDが3枚必要です。

リカバリ実行時の注意事項

『ユーザーズマニュアル』- p.148「リカバリの実行」手順7で、「コンピュータの再起動」画面が表示されずにコマンドプロンプト(P:¥>)が表示された場合は、**Ctrl** + **Alt** + **Delete**を押してコンピュータを再起動し、手順8以降を行ってください。

マウスドライバのインストール

マウスドライバのインストールは次の手順で行います。

- 1 「マウスドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
もし自動的にセットアップ画面が表示されない場合は、[スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックし、「名前」に「D:\SETUP」と入力し[OK]をクリックします。
- 2 「設定言語の選択」画面で[OK]をクリックします。
- 3 「インストール先の選択」画面で[次へ]をクリックします。
- 4 「プログラムフォルダの選択」画面で[次へ]をクリックします。
- 5 「InstallShieldウィザードの完了」画面で[完了]をクリックします。
- 6 Windowsが再起動すると「新しいホイールマウスがPS/2ポート上で検出されました。このデバイスの設定を今すぐに行いますか？」と表示されます。[はい]をクリックしてマウスの設定を行います。これでマウスドライバのインストールは終了です。

モデムドライバのインストール (FAXモデム機能搭載モデル)

FAXモデム機能を搭載しているモデルをお使いの場合は、モデムドライバのインストールを行います。

- 1 「リカバリCD Disc3」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「システム」-「ハードウェア」タブ-[デバイスマネージャ]をクリックします。
- 3 「その他のデバイス」の下にある「PCIモデム」をダブルクリックします。
- 4 「PCIモデムのプロパティ」画面の「全般」タブ-[ドライバの再インストール]をクリックします。

- 5 「ハードウェアの更新ウィザードの開始」と表示されたら、「一覧または特定の場所から...」にチェックを付けて「次へ」をクリックします。
- 6 「検索とインストールのオプションを選んでください。」と表示されたら、「検索しないで、インストールするドライバを選択する」にチェックを付けて「次へ」をクリックします。
- 7 「ハードウェアの種類」画面が表示されたら、「モデム」を選択して「次へ」をクリックします。
- 8 「インストールするモデムを選択してください。」と表示されたら、「ディスク使用」をクリックします。
- 9 「製造元のファイルのコピー元」に次のとおり入力して「OK」をクリックします。
D:¥ MODEM ¥ WINXP (CD-ROMドライブがDドライブの場合)
- 10 「モデル」欄に「56K Voice Modem Riser」と表示されたら「次へ」をクリックします。
- 11 「ハードウェアのインストール」画面が表示されたら、「続行」をクリックします。
- 12 「ハードウェアの更新ウィザードの完了」と表示されたら、「完了」をクリックします。
- 13 「56K Voice Modem Riserのプロパティ」画面が表示されたら、「閉じる」をクリックします。
- 14 Windows を再起動します。Windows が再起動したらモデムドライバのインストールは終了です。

マニュアルディスクのインストール

バックアップFD作成ユーティリティで作成した、『ユーザーズマニュアル』のPDFファイルをインストールします。

- 1 「マニュアルディスク 1」をFDD にセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に次のとおり入力して[OK]をクリックします。
A:¥SETUP
- 4 以降は画面の指示に従います。
セットアップが終了するとデスクトップ上に「ユーザーズマニュアル」アイコンが表示されます。

ステップバイステップインタラクティブのインストール

「ステップバイステップインタラクティブ」をインストールすると、WindowsXPの使い方を画面上でいつでも見ることができます。必要な場合はインストールします。インストールは次の手順で行います。

- 1 「リカバリCD Disc3」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
D:¥SBSI¥SETUP¥SETUP
- 4 「ようこそ」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 5 「製品ライセンス契約」画面が表示されたら、[はい]をクリックします。
- 6 「Microsoftインタラクティブトレーニング」画面が表示されたら「名前」と「会社名」を入力して[次へ]をクリックします。

- 7 入力した「名前」と「会社名」の確認の画面が表示されます。入力した情報が正しければ、[はい] をクリックします。インストールが開始されます。
入力に間違いがあった場合は、[いいえ] をクリックして、手順6の画面で情報を入力し直してください。
- 8 「セットアップが完了しました……」と表示されたら、[完了] をクリックします。
- 9 「Readme」ファイルが表示されます。内容を確認したら、画面右上にある x をクリックします。
- 10 [スタート] - 「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 11 「名前」に次のとおり入力して、[OK] をクリックします。
D:¥QFE¥Q307460
- 12 Windowsを再起動します。Windowsが再起動したら、「ステップバイステップインタラクティブ」のインストールは終了です。

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティ、アプリケーションなどのインストールが必要です。インストールは、「バックアップFD 作成ユーティリティ」で作成したFD や、あらかじめオプション類に添付されていたメディアを使用して行います。詳しくは、本機でお使いになるオプション類のマニュアルをご覧ください。



必要なドライバやユーティリティは、お使いになるシステム構成によって異なります。例えば、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

- ・ USB機器を使用する場合： USB機器に添付のドライバ
- ・ プリンタを使用する場合： プリンタに添付のドライバ

本章では、『ユーザーズマニュアル』-「付録」の読み替え部分について説明しています。
「HDDを購入時の状態に戻す」については、本書の4章をお読みください。

ATコマンドの使用

ATコマンドについて

本機で使えるATコマンドの一覧(ATコマンドリファレンス)は、「リカバリCD Disc3」の「MODEM」-「ATコマンドリファレンス.pdf」をご覧ください。

ATコマンドの使用

「モデムのプロパティ画面」の「追加設定」にATコマンドを入力することで、モデムの不具合を解消したり、初期的な設定を行うことができます。

「追加設定」は、[スタート]-「コントロールパネル」-「プリンタとその他のハードウェア」-「電話とモデムのオプション」-「モデム」タブ-[プロパティ]-「詳細設定」タブにあります。詳しい操作方法については、『ユーザーズマニュアル』-p.141「ATコマンドの使用」をお読みください。

HDD領域の変更

HDD領域の変更を行う場合は、すべて本章の手順に読み替えてください。

HDD領域の変更

WindowsXPの購入時のHDD領域は、NTFSを使用して1つのパーティションで設定されています。

既存領域の削除



既存の領域を削除します。WindowsXPがインストールされている領域は「非MS-DOS領域」です。

MS-DOS領域の作成



基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域を、FDISKコマンドを使用して作成します。ここで作成した拡張MS-DOS領域は、WindowsXPの拡張パーティションになります。

WindowsXPのインストール



p.33「4 HDDを購入時の状態に戻す」を参照して、必要なすべての作業を行います。

論理ドライブの作成

WindowsXPの「ディスクの管理」で拡張MS-DOS領域に論理ドライブを作成します。

NTFSとは

WindowsXPインストールモデル購入時のHDDは、NTFSを使用してWindowsがインストールされています。NTFSは、FATファイルシステムに比べて信頼性が高く、セキュリティに優れています。購入後にファイルシステムを変更してもリカバリを実行すると、Cドライブのファイルシステムは、購入時のNTFSに上書きされます。

ファイルシステム

本機の購入時のHDDは、NTFSで領域を設定し、Windowsがインストールされています。NTFSは、FATファイルシステムに比べて信頼性が高く、セキュリティに優れています。購入後にファイルシステムを変更してもリカバリを実行すると、Cドライブのファイルシステムは、購入時のNTFSに設定変更されます。

FDISKコマンドを実行するときの注意

FDISKコマンドを実行する時は、次の点に注意してください。

ディスク容量が間違っ表示されることがありますが、実際には正しく認識されています。

領域の作成中に、容量を設定する時は、HDDの全容量に対する割合(%)を入力してください。容量を入力すると正しく領域を作成することができません。

既存領域の削除

既存領域の削除を行う前に、WindowsXPの「ディスクの管理」で作成したパーティションは、「ディスクの管理」で削除する必要があります。

WindowsXPのインストールされている領域を削除する方法は、次のとおりです。

- 1 「リカバリCD Disc1」を使ってコンピュータを起動します。
 『ユーザーズマニュアル』 - p.158「起動方法」
- 2 コマンドプロンプト(P:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して  を押します。
FDISK
- 3 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますが(Y/N)」と表示されます。 を押して  を押します。

- 4 「すべてのドライブのNTFSパーティションを大容量ドライブとして取り扱いますか」と表示されます。を押してを押します。
- 5 「ハードディスクセットアッププログラム - FDISKオプション」画面で「3. 領域または論理MS-DOSドライブを削除」を選択します。を押してからを押します。
- 6 「非MS-DOS領域を削除」を選択します。を押してからを押します。
- 7 削除する領域の確認メッセージが表示されます。「1」と表示されていることを確認してを押します。
- 8 「続けますか」と表示されたら、を押してを押します。
WindowsXPがインストールされているNTFS領域が削除されます。
- 9 を押して「FDISKオプション」画面に戻ります。
領域を作成する場合は、次ページ「基本MS-DOS領域の作成 手順5」に移ります。
- 10 を押してFDISKを終了します。
- 11 コマンドプロンプト(P:¥>)が表示されます。
これでWindowsXPがインストールされていた領域の削除は終了です。

基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域の作成

WindowsXP がインストールされていた既存領域を削除したら、HDD 領域を分割して、WindowsXP をインストールする領域と拡張MS-DOS 領域を作成します。HDD 領域を分割する場合は、最初にFDISK コマンドを使って、「基本MS-DOS 領域」と「拡張MS-DOS 領域」を作成しておく必要があります。

「基本MS-DOS 領域」は、WindowsXP をインストールする「プライマリパーティション」に、「拡張MS-DOS 領域」は、「拡張パーティション」になります。

「基本MS-DOS 領域」は、FAT32 ファイルシステムで作成されますが、リカバリ実行後は、NTFS に設定変更されます。

「拡張MS-DOS 領域」を作成せずに、未設定領域のままリカバリを実行すると、HDD 領域は分割されず、1 パーティションとして設定されてしまいますので、注意してください。

基本MS-DOS領域の作成

- 1 「リカバリCD Disc1」を使ってコンピュータを起動します。
 『ユーザーズマニュアル』 - p.158「起動方法」
- 2 コマンドプロンプト(P:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して
 を押します。
FDISK
- 3 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N)」と表示されます。 を押して  を押します。
- 4 「すべてのドライブのNTFSパーティションを大容量ドライブとして取り扱いますか」と表示された場合は、 を押して  を押します。
- 5 「ハードディスクセットアッププログラム - FDISKオプション」画面で「1.MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。 を押してから  を押します。
- 6 「MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」画面で、「1.基本MS-DOS領域を作成」を選択します。 を押してから  を押します。
- 7 「基本MS-DOS領域に使用できる最大サイズを…」とメッセージが表示されます。 を押して  を押します。

- 8 を押すと「領域のサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。割り当てるサイズを入力しを押します。
64GB以上のHDDをご使用の場合は、全体に対する割合を%で入力してください。(例:50%)
- 9 基本 MS-DOS 領域が作成されます。を押して、「FDISKオプション」画面に戻ります。
- 10 処理メニューから「2. アクティブな領域を設定」を選択します。
を押してからを押します。
- 11 「アクティブにしたい…」とメッセージが表示されます。を押してからを押します。
- 12 「領域1がアクティブになりました」とメッセージが表示されます。
を押して、「FDISKオプション」画面に戻ります。
- 13 再び、処理メニューから「1. MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。を押してからを押します。
- 14 「2. 拡張 MS-DOS領域を作成」を選択します。を押してからを押します。
- 15 「領域のサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。ここではそのままを押します。
64GB以上のHDDをご使用の場合は、全体に対する割合を%で入力してください。(例:50%)
- 16 拡張 MS-DOS 領域が作成されたあと、を押します。
- 17 「論理ドライブは定義されていません」と表示され、ドライブのチェックが行われます。チェックが終了したら、を押します。
- 18 「FDISKオプション」画面が表示されるので、を押します。
- 19 FDISK終了画面が表示されるので、を押します。

20 コマンドプロンプト(P:¥>)が表示されます。

 +  + を押してコンピュータを再起動し、WindowsXPのインストールを行います。

 『ユーザーズマニュアル』- p.148「リカバリの実行」

WindowsXPのインストールを行ったあと、次の項目「論理ドライブの作成」を行います。

論理ドライブの作成

HDD領域の変更時、拡張MS-DOS領域(拡張パーティション)を作成した場合は、論理ドライブを作成します。

論理ドライブの作成方法は、次のとおりです。

- 1 [スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「管理ツール」-「コンピュータの管理」をダブルクリックします。
- 2 画面左側の「記憶域」にある「ディスクの管理」をクリックします。
- 3 「ディスク0」の「空き領域」を右クリックし、表示されたメニューから「新しい論理ドライブ」を選択します。
- 4 「新しいパーティションウィザード」が起動するので、画面の指示に従って設定を行います。
- 5 新しいドライブが割り当てられ、フォーマットが終了すると領域が使用できるようになります。



WindowsXPの「ディスクの管理」で作成した論理ドライブは、FDISKコマンドでは削除できません。削除する場合は、必ず「ディスクの管理」から実行してください。

MEMO

MEMO



再生紙使用